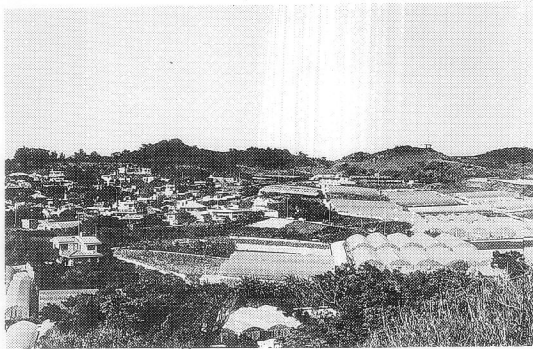
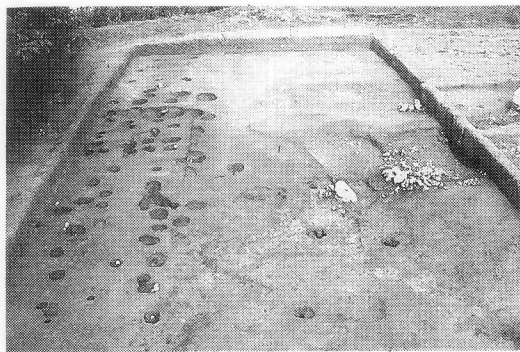


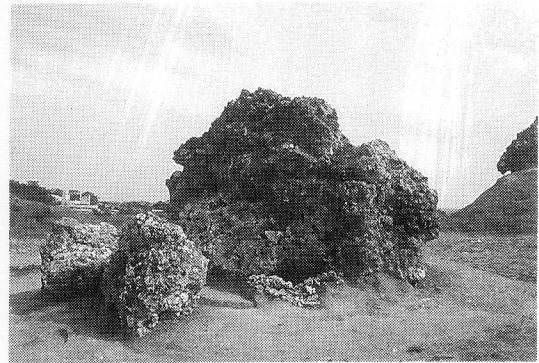
と かしきくしばる いせきぐん  
**渡嘉敷後原遺跡群**



渡嘉敷後原遺跡群遠景（平成8年3月撮影）



柱穴群検出状況



古墓検出状況

渡嘉敷後原遺跡群は、渡嘉敷集落の北東側、地元では「フルキントー」といわれる標高約93mの眺望のよい丘陵に立地しています。天候の良い日には北側に読谷村、北東側に首里城、西側に慶良間諸島が遠望できます。

丘陵一帯には石切り場跡、古墓群、生活跡が存在し、平成5年度及び7年度に老人施設及び社会福祉施設建設に伴い、古墓群と生活跡の記録保存調査が行なわれています。その結果、古墓の調査では自然の石灰岩の岩影を利用した小規模な岩陰墓が4基確認されており1基の墓からは墓を造った時の儀礼として利用したと思われる「シャコ貝」が出土しています。

生活跡からは12～18世紀に相当する中国産の青磁、白磁、染付などの陶磁器や須恵器、沖縄産陶器、石器、金属製品等多くの遺物が出土しています。遺構は柱穴群が検出され図面上で建物のプランを想定したところ3棟の建物プランが確認されています。

周辺には平良グスク、保栄茂グスク等のグスクが存在することから、周囲のグスクとの中間地で何らかの役割があったものと推察されます。

